

正岡子規と美術

1 開催趣旨

近代俳句の革新者として知られる正岡子規（1867-1902）は、愛媛県松山市に生まれました。子規は、浅井忠、中村不折ら洋画家と親しく交流し、子規の文学の根本をなす「写生」の理論も、彼らとの交流の中ではぐくまれたといわれています。それは、過去の因習や主観を捨て、目の前に見えるものの客観的な描写によって、真実に到達しようとする思考のあり方であり、明治という時代の精神を象徴するものといえるでしょう。

本展では、子規が自ら描いた絵画作品をはじめ、自然のなかの美を追い求めた明治の画家たちの作品を紹介いたします。

※正岡子規略歴

1867年、愛媛県松山市生まれ。東京での学生生活を経て文学の改革に志し、新聞「日本」の記者として活動、若くして肺結核を発症、闘病の末、東京・根岸で短い生涯を閉じる。想像を絶する病苦のなか、俳句・短歌をはじめとする創作をつづけ、多くの随筆・評論を残している。

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』では、同郷で、のちに日露戦争の立役者となった秋山好古・真之兄弟との交流が描かれている。現在、NHKでスペシャルドラマ「坂の上の雲」が放送中（最終回は2011年12月25日）。

2 会期・開館時間

会期：2012年2月11日（土・祝）～4月15日（日）

開館時間：10時～18時

休館日：3月5日（月）、4月2日（月）

無料観覧日：2月12日（日）

3 観覧料

一般 800（640）円／高大生・65歳以上 600（480）円／中学生以下無料

*（ ）内は20名以上の団体料金および前売り料金（前売りは2月10日まで）。前売り券は美術館受付、横須賀芸術劇場チケットセンター（横須賀芸術劇場1階、横須賀中央駅モアーズシティ1階）でお求めになれます。

*市内在住または在学の高校生は無料。

*身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料。

4 主催

主催／横須賀美術館

協力／松山市、坂の上の雲ミュージアム、松山市立子規記念博物館、みかさルネッサンス事業実行委員会

5 関連事業

講演会：「正岡子規と中村不折～その交流」

日時：3月20日（火・祝）14時～ 講師／復本一郎氏（神奈川大学名誉教授）

ワークショップ：「絵画の写生・ことばの写生 絵からはじまる俳句入門」

日時：3月3日（土）14時～16時 講師／松井貴子氏（宇都宮大学教授）

学芸員によるギャラリートーク：2月11日（土・祝）、3月10日（土）、4月7日（土） 各日14時～

6 お問い合わせ先

担当：遠藤・友田

〒239-0813 横須賀市鴨居4-1 TEL：046-845-1211 FAX：046-845-1215

E-mail：kouhou@city.yokosuka.kanagawa.jp ホームページ：<http://www.yokosuka-moa.jp/>

本展の構成

1. 「写生」の水脈

西洋文明との出会いを経験して、明治の青年たちは、目に見えるものをそのままに写しとる喜びを知りました。イタリア人教師フォンタネージによってはじめて本格的な美術教育を受けた小山正太郎や浅井忠、小山に学んだ中村不折らの作品から、子規の生きた時代をふりかえります。



(左) アンтониオ・フォンタネージ《木立》19世紀中頃 東京藝術大学

(右) 浅井忠《八王子付近の街》1887年 愛知県美術館



(左) 正岡子規《床の間写生図》

1902年 今治市河野美術館

(右) 香取秀真《子規居士肖像》

1901年 (財) 子規庵保存会

2. 子規の絵

過酷な闘病生活の傍らで、子規自身も多くの絵を描きました。身近な対象を見つめ、作為を加えずに写しとろうとする態度は、子規の文学とも共通しているといえるでしょう。ここでは、子規自筆の絵と、周辺の美術家たちによって描かれた子規の肖像などを展示します。自らの死を受け容れながら、なおも命あるものの不思議さ、美しさに強く執着する、病床の子規の息づかいが感じられるでしょうか。

3. 自然へのまなざし

晩年の子規が、身のまわりの些細なことに普遍的な美を見出したように、画家たちもまた自然を愛し、なにげない日常の中の美しさをとらえようとしていました。ここでは、黒田清輝をはじめとする白馬会の画家たちの作品を通じて、子規の世代の美術が目指したものを探ります。



(左) 黒田清輝《残雪》1892年 東京国立博物館 (画像提供: 東京文化財研究所)

(右) 藤島武二《池畔納涼》1898年 東京藝術大学

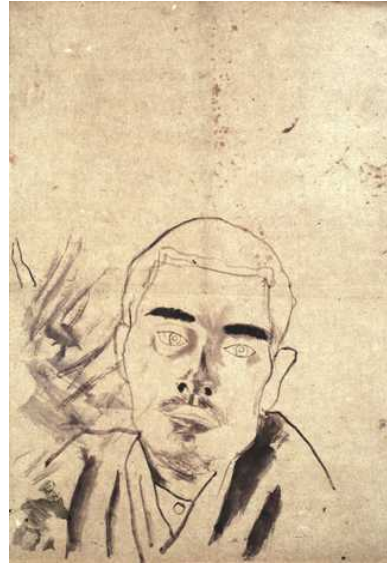
同時開催 スペシャルドラマ「坂の上の雲」パネル展 (無料)

2011年までの3年間にわたって放映されたスペシャルドラマ「坂の上の雲」では、松山に生まれた秋山好古・真之の兄弟と、正岡子規との交友が描かれています。写真パネルや撮影に使われた衣裳などで、ドラマの世界をふりかえります。

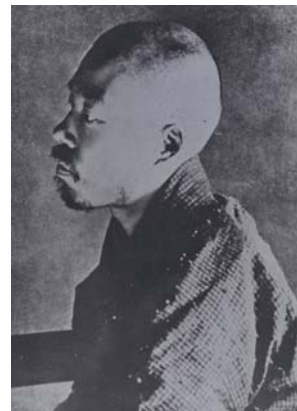
同時開催 秋山好古・真之兄弟と正岡子規ゆかりの地 松山コーナー (無料)

FAX : 046 - 845 - 1215 横須賀美術館行き

本展覧会の掲載図版ならびにチケットプレゼント用招待券（ペア10組分/20枚）をご希望の方、下記へご記入の上FAXにてご請求ください。必要な図版に☑してください。



- [左] 正岡子規《蔓草と鶏頭》1901年頃 松山市立子規記念博物館（3月4日まで展示）
- [中央] 正岡子規《病室の冬》1900年 松山市立子規記念博物館寄託（3月4日まで展示）
- [右] 正岡子規《自画像》1900年 松山市立子規記念博物館（3月4日まで展示）



- [左] 正岡子規《果物図》1902年 個人蔵
- [中央] 浅井忠《農夫帰路》1887年 ひろしま美術館寄託
- [右] 晩年の正岡子規（画像提供：松山市立子規記念博物館）

必ずご記入ください⇒ 貴社名 _____ TEL _____

貴誌（紙）名 _____ ご担当者様お名前 _____

メールアドレス（画像データ送付先） _____

チケットプレゼント用招待券 希望する 希望しない _____ ※チケットを20枚以上希望される方は遠慮なくお申し出ください。

ご住所（チケット送付先） _____

ご要望事項（サイズ・解像度など） _____